



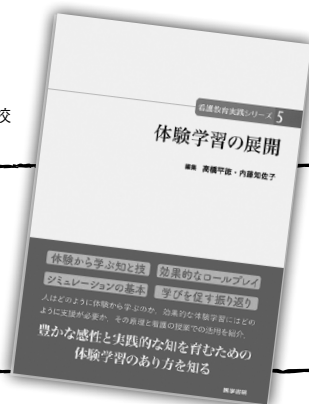
Book Review

評者：高塚由香里 ハートランドしづさん看護専門学校

看護教育実践シリーズ5 体験学習の展開

編集：高橋平徳、内藤知佐子／本体：2400円＋税

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



豊かな体験をしてほしい、と願う看護教員へ

「豊かな感性」と「臨床の知」を育む看護学生にとって、経験が非常に大きな意味をもつといえます。経験はそれぞれの体験に意味づけがなされて蓄積されていくことや、体験には実感・発見・感動があることに鑑みると、学生にとってのより豊かな体験を意図的に準備することが、私たち教員には求められます。

看護実践能力の育成のために、体験の機会を多くもち、振り返りを充実させることの必要性は常に言われており、看護教育の現場においてさまざまな体験学習の方法が活用されています。そのなかでも、臨地実習は代表的な体験学習の場であり、患者・家族・他の医療従事者の方々とのかかわりから学習を深めることのできる最も貴重な体験です。しかし、やり直しのきかない本物の体験であり、リスクを伴うことになるため、多くの学校では事前にロールプレイやシミュレーションを実施しています。私の勤務する看護学校においても、ロールプレイやシミュレーションによる演習を体験することで、学生は安全を保障された環境のなかで自身の行動のイメージができ不安の軽減につながっているようで、必要な学習方法であると実感しています。

本書は、第1部で体験学習の理論をふまえてその意義や特徴の理解を得て、第2部で体験学習の具体的方法を学ぶという2部構成になっています。また、付録ではロールプレイのシナリオやシミュレーション

ガイドなどが掲載されており、具体的な教員用実施要項があるため、授業案を作成する際の参考書としても活用できることと思います。

第2部の体験学習の方法では、計画や振り返りについて詳しく述べられているとともに、シミュレーション、ロールプレイ、臨地実習という代表的な体験学習について実践に役立つように整理されています。さらに、第10章では「体験の場は授業に限らない」として、学生のカリキュラム外のさまざまな体験全体を広く学習の場ととらえて成長を支援する準正課教育についても示されています。「単位にかかわる授業だけを学生の学習経験ととらえるのではなく、学生のさまざまな経験全体を広く学習の場ととらえて、成長を支援するのです」という著者の考えは、自由度の少ないカリキュラムのなかにあっても、学生に広い視野をもって豊かな体験をさせたいという思いが伝わってきました。私自身も、学校行事やボランティア活動などの学生のあらゆる体験が看護師になるうえで貴重であると確信していますので、とても共感しながら読み進めることができました。

「未来の看護を担う看護学生に豊かな体験をしてほしい」と願い、その方法を模索している看護教員の皆さまにぜひ読んでいただきたい1冊です。